

『文化財と技術』

第10号

第一部 美術と技術の歴史

- 山中 理 美術史と金属工芸
 ー唐時代銀器「鍍金狩獵文六花形銀杯」の周りを廻ってー
- 金 跳 咏 原三国～三国時代における鉄製刀剣の製作技術とその意味
- 吉田秀享 鍛冶作業場の推定 ー二例の古代鍛冶炉からー
- 上 梶 武 日本古代の鉄鑄造と素材鉄
- 鈴木 勉 韓半島の鑄造技術と毛彫り技術から藤ノ木馬具・法隆寺へ
- 金 跳 咏 三国時代における鉄鐸の副葬と性格
- 平林大樹 根挟みを用いた後期・終末期古墳副葬矢の構造
- 姜 旼 廷 益山・笠店里古墳出土金銅飾履の復元製作研究

第二部 象嵌研究

- 鈴木 勉・金 跳 咏 威安末伊山5号墳出土象嵌鉄刀の線彫り技術
 ー線彫り技術判定の基準試料の提示ー
- 瀧瀬芳之 日本列島内出土象嵌遺物集成2
 ー刀剣・銚・刀子編（補遺・追加）及び馬具・鏡 他編ー

第三部 金石文研究

- 福井卓造 七支刀銘の「為倭王旨造」について
- 鈴木 勉 漧の技術・石刻の技術
- 鈴木 勉 會津八一先生筆色紙「心」について

第四部 復元研究

- <宮地嶽古墳出土大型頭椎大刀の復元研究>
- 鈴木 勉 復元の企画
- 鈴木 勉 復元のための調査と推定
- 藤安将平 (作刀補助：有賀一久・中西裕也 記録：金 跳 咏)
 刀身の復元
- 藤安将平 (記録：金 跳 咏)
 木製鞘の復元
- 藤安将平 (記録：金 跳 咏)
 木製柄の復元
- 山田 琢 金銅装の復元
- 鈴木 勉 鑄造鈴の復元

〈宮地嶽古墳出土大型頭椎大刀の復元研究〉
木製鞘の復元

藤安将平（記録：金 跳 咏）

1. 木材の準備

日時：2013年8月16日

刀身が完成されていくにつれて鞘と柄の製作を始めた。鞘と柄はヒノキで造ることにした。

- (1) 刀身の大きさ（2500×90×31mm）に合わせた木材を2つ準備し、鉋を掛けて表面を整えた（写真1）。
- (2) 刀身を木材の内側に当てて、線を引いてしるしをしておいた（写真2）。
- (3) しるしをつけた木材の内側を鑿で削り出した（写真3～9）。



写真1 鉋を掛ける



写真2 しるしをする



写真3 鑿で削り出す



写真4 鑿で削り出す

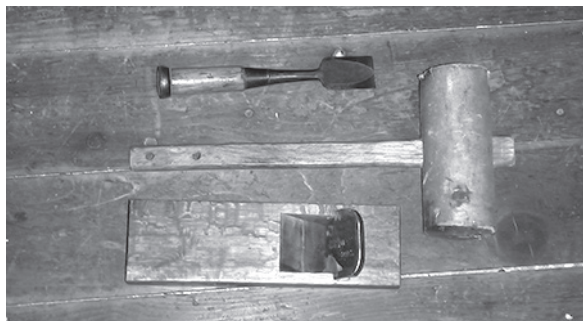


写真5 鑿と木槌と鉋



写真6 鑿で削り出す

日時：2013年8月31日

- (4) 刀身を当ててながら、木材の内側を滑らかに整える（写真10）。



写真7 内側を鑿で削り出す①



写真8 内側を鑿で削り出す②



写真9 内側を鑿で削り出す③

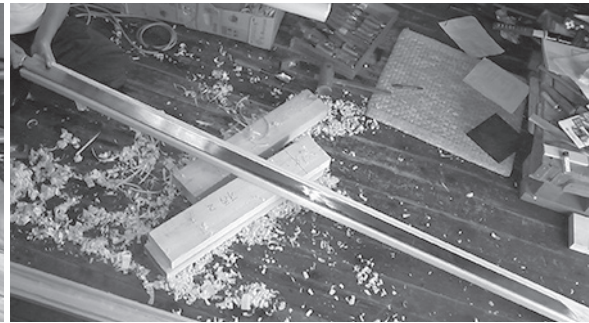


写真10 内側を滑らかに整える

日時：2013年9月2日

(5) 内側を削った2つの材を重ね、鞘の形にする。刀身を鞘の中に入れてたり抜いたりして、調整する(写真11)。

(6) 木材の収縮による歪に対応するため、2つの木材の接着は木表同士を合わせた(写真12)。

(7) 鞘から刀身を抜く時、少しきついくらいの状態(図13)、5日間、鞘を万力で仮止めしておいた(写真14)。

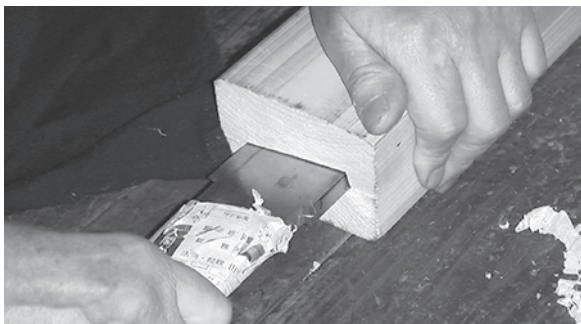


写真11 調整する

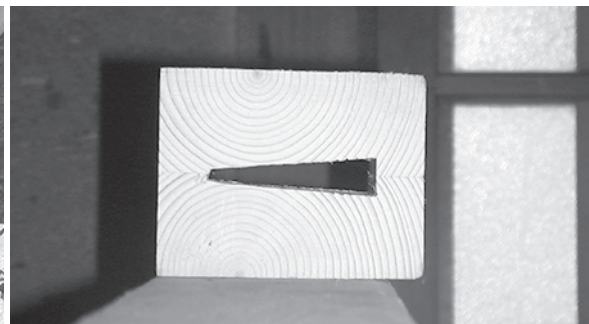


写真12 調整する



写真13 調整する



写真14 鞘を万力で仮止め

2. 型の製作

日時：2013年9月3日

- (8) 鞆の丸みが一定になるように、型を製作した (写真 15)。
- (9) 銅板を図面に当てて、鞆の断面形状を写し、鋏で銅板を切った (写真 16、17)。
- (10) ヤスリで型のバリを取って型を完成した (写真 18)。
- (11) 型は鞆と柄の2つを作った (写真 19)。

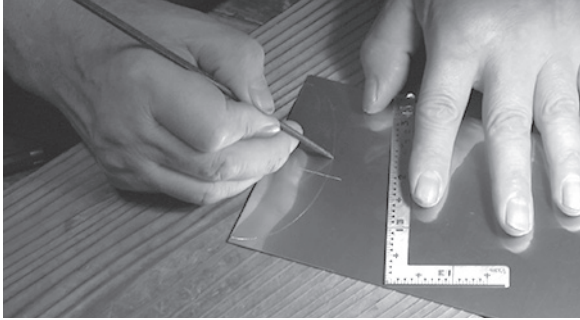


写真15 ケガキ作業



写真16 銅板を切る

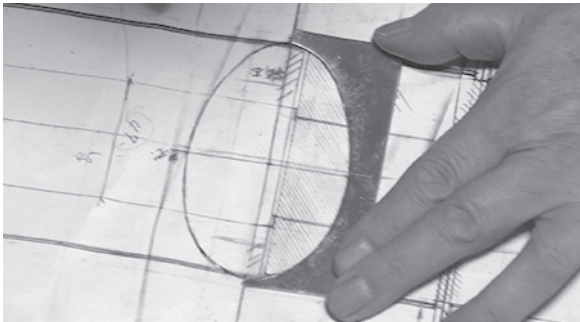


写真17 調整する

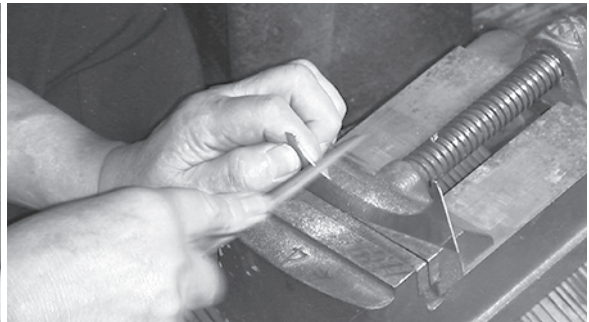


写真18 ヤスリで仕上げる



写真19 鞆と柄の型

3. 木材の接合

日時：2013年9月6日

- (12) 鞆、柄に使われる木材の接着には「そくい」を使った (写真 20～22)。
- (13) そくいはご飯を木のへらで押し潰して作った接着剤である。



写真20 飯粒



写真21 飯粒を木のヘラで押し潰す

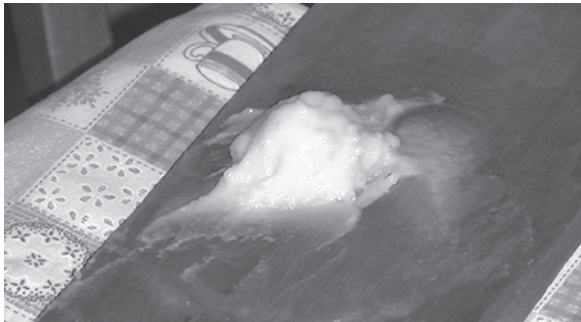


写真22 出来上がったそくい

日時：2013年9月7日

- (14) 鞘を縛っておいた紐を解いて、最後に鞘の内側を整えた (写真 23)。
- (15) 鞘の接着部分にそくいを塗って、2つの材を重ねて接着 (写真 24～27)。
- (16) そくいで接着した鞘を、さらにしっかりと接着させるため、紐を交差するように縛った (写真 27)。
- (17) そして、鞘との間に楔を打ち込んで締め、その状態で1日おいた (写真 28、29)。

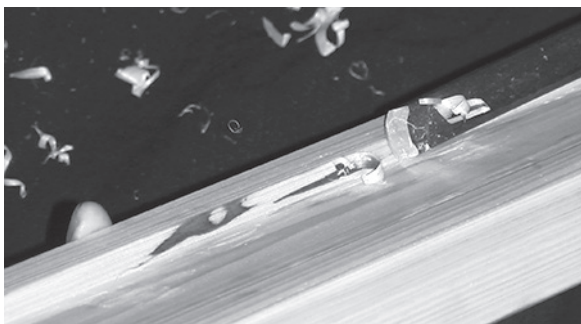


写真23

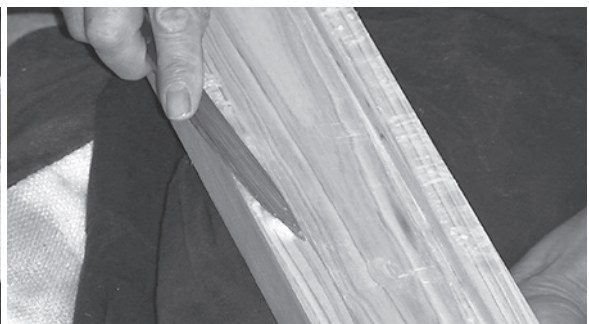


写真24 そくいを塗る

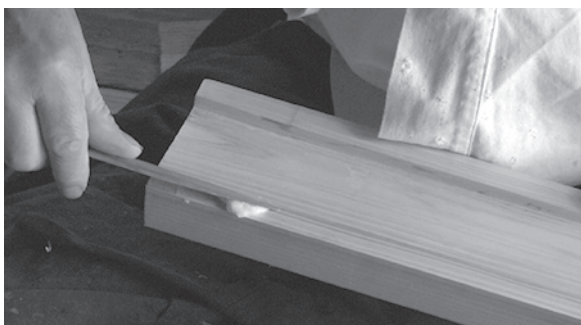


写真25 そくいを塗る



写真26 そくいを塗る



写真27 紐を交差するように縛った



写真28 くさびを打ち込む



写真29 1日置く

4. 鞆の仕上げ

日時：2013年9月8日

- (18) 縛っておいた紐を外す。
- (19) あらかじめ、造っておいた型を使って、端面に鞆の断面を描き写して (写真 30、31)、
- (20) 鞆の外側を鉋で削る (写真 32、33)。
- (21) 長さがあるため、特別に製作したウマと呼ぶ台の上に鞆をかけて削る (写真 34、35)
- (22) 外側の丸みを型で確認しつつ削る (写真 36)。



写真30 紐を外す

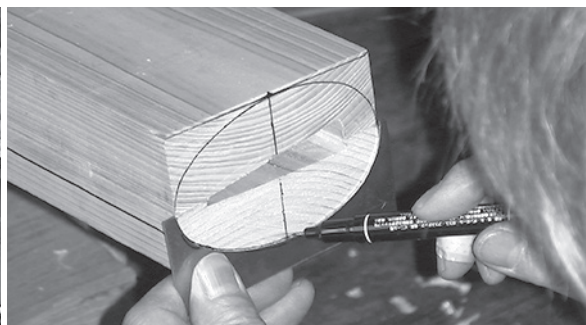


写真31 断面を描き写す



写真32 鞆の外側を削る



写真33 鞆の外側を削る



写真34 ウマにかけて削る



写真35 外側を削る

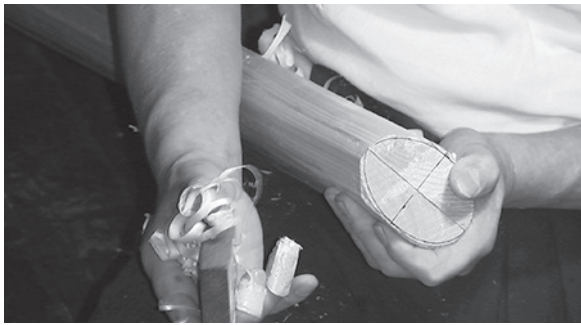


写真36 鞘尻側を削る

日時：2013年9月10日

ある程度外側の丸みが出来たら、鞘の先端を整える。

- (23) 図面から鞘の先端を写し取り (写真 37、38)、
- (24) 鋸と鑿で成形する (写真 39～42)。

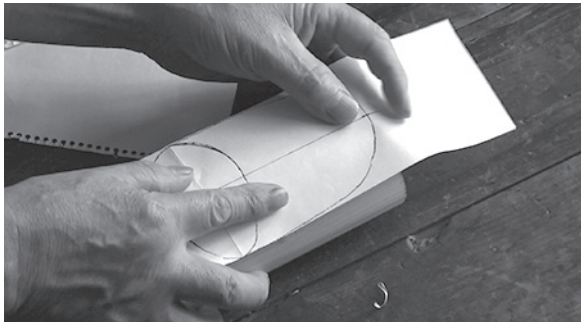


写真37 図面から写し取る



写真38 鞘の先端の形



写真39 成形する



写真40 成形する



写真41 成形する



写真42 鞘の先端が完成する

日時：2013年9月12日

(25) 鞘の表面を整え、完成させる (写真 43、44)。



写真43 鞘の表面を整える



写真44 鞘の表面を整える

文化財と技術 第10号

2021年 9月30日 印刷

2021年10月 1日 発行

編 集	鈴木 勉
発 行	特定非営利活動法人 工芸文化研究所 所長 鈴木 勉
発行所	特定非営利活動法人 工芸文化研究所 所長 鈴木 勉 東京都台東区根岸5-9-19 (〒110-0003)
印 刷	千葉刑務所 千葉県千葉市若葉区貝塚町192 (〒264-8585)